

都市交通における自動運転技術の 活用方策に関する検討会 分科会の検討方針

1. ニュータウン分科会

ニュータウン分科会の検討方針

【平成29年度第2回検討会より再掲】

検討方針

○急勾配が多い丘陵地での立地や、立体的な歩車分離が実施されていることが多いニュータウンでは、近年の高齢化の急速かつ一斉の進展に伴い、高齢化に伴う運動能力の低下に起因する、徒歩での上下移動や自家用車運転が困難になる等の移動手段の制約が発生。

- ニュータウンにおける交通実態を把握し、需要側であるニュータウンの人口構成、地理的環境、生活拠点、公共交通利用の視点からの課題及び、公共交通の供給側からの課題を整理・分析。
- 上記で整理・分析した現状と課題を踏まえ、将来求められる公共交通サービスイメージを検討。
- ニュータウンにおける公共交通サービスへの自動運転技術の活用の意義及び、将来的な無人運転化を見据えた実証実験の必要性を整理。
- 机上検討を踏まえた自動運転サービス導入による効果や課題及び、課題を踏まえて実証実験で評価が必要な事項を検討。
- ニュータウンへの自動運転サービスの社会実装に向けて取り組む方向性を整理。

自動運転技術も活用した、ニュータウンにおける持続可能な公共交通体系の方向性を模索

過年度で検討した、ニュータウンで求められる公共交通サービスへの自動運転サービス導入に向け重点的に取り組むべき課題に対し、実証実験により解決に向けた対応策を検討する

【過年度検討事項】

- ニュータウンで求められる公共交通サービスイメージ、及び実現に向けた流れの整理
- 机上検討を踏まえた、自動運転サービス導入時の効果・課題の整理
- 机上検討を踏まえた、自動運転サービス実証実験にて評価が必要な事項の整理



【実証実験の実施】

ニュータウンを対象とした自動運転サービスの導入実証（参考資料参照）



①自動運転サービスの導入効果や課題の評価

- 机上検討で検討した仮説（導入効果・課題）の検証
- 実証実験で評価が必要な事項の精査
- ニュータウン側で、主にインフラ整備が必要な事項の精査

②社会実装に向けて必要な事項の整理

- Lv4以上への移行期間中（Lv2,3想定）に検証が必要な事項の精査



③ニュータウンで求められる公共交通サービスへの自動運転サービス導入可能性検討

- Lv4以上への移行期間中（Lv2,3想定）において実装可能な自動運転サービスを考慮した公共交通の利用イメージの精度向上
- Lv4以上の無人運転化が実現された場合の、公共交通サービスイメージの精度向上
- ニュータウンにおける他施策との連携のあり方検討

2. 基幹的なバス分科会

基幹的なバス分科会の検討方針

【平成29年度第2回検討会より再掲】

検討方針

○基幹的なバスは、新交通・路面電車とともに、コンパクト＋ネットワークを形成する都市の軸となる交通機関であり、バリアフリー対応や輸送容量の強化などの高度化がさらに求められている。



○都市交通としてみたバスを取り巻く、需要の変化、安全性の確保、運転手など担い手の不足などの課題や基幹的なバスに求められる機能、ニーズを整理。

○専用走行路や専用車線などを有し、技術的にも導入可能性が高いと考えられる基幹的なバスの状況及び技術動向の整理。

○利用者の視点を含めた基幹的なバスの課題解決・機能向上に向けた、自動運転技術の活用の可能性を検討。

○基幹的なバスにおいて期待される自動運転技術の実現に向けて、自動運転技術の効果の検証やバスの自動運転化を進めるための社会的環境整備の必要性を検討。



基幹的なバスにおいて自動運転を実用化し、他のバス交通への展開につなげる

平成30年度における基幹的なバス分科会の検討事項

○前回分科会で整理した取組方針を踏まえ、今年度は実証実験による課題や効果の検証、機運醸成会議における議論等を行い、都市施設のあり方・支援策等の課題の整理や検討の深度化を図る。

先行的取組による効果検証

- 社会実装が比較的早期に実現される可能性が高い、拠点内回遊型の低速走行のバスについて、実証実験を通じて、技術的な課題や導入効果、影響等の検証を行う。
- 都市の軸となる路線や都心循環型のバスなどについては、専用走行空間での実証実験の実施に向け、必要条件などの検討を行う。
- 精度の高い正着制御など、レベル3以下でも効果が発現する自動運転技術の導入については、早期に実施できるよう技術的助言や支援方策等の検討を行う。

①実証実験による効果・課題の検証

- ・比較的早期に導入が可能と考えられる技術の検証

都市部での実証実験の実施

導入機運の醸成

- 機運醸成のため、地方公共団体やバス事業者等が定期的に情報共有を図る場となる会議を開催する。

②機運醸成会議の開催

- ・基幹的なバスへの自動運転等新たな技術導入を促進するための関係者の機運醸成

自動運転技術導入環境の整備

- 技術動向の把握や実証実験などで得られた知見を踏まえ、自動運転導入の技術的課題や影響の検証、自動運転導入による期待効果が発揮されるような交通施設のあり方等を検討する。
- 引き続き、自動運転技術の導入を促進するバスの高度化(専用走行空間や車外改札方式の停留所等の整備)に対し、支援を行う。

③基幹的なバスに関する都市施設のあり方の検討

- ・仮説の検証、深度化
- ・交通施設の対応必要性の整理